

令和2年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	実務経験のある 教員による授業 科目	基礎・専門 別	単位数	選択・必修 別	開講年次・ 時期
37301	生活支援技術の基礎 The basics of care technique	木村 典子 近藤 美香		専門	1	選択	1・2前期
科目の概要							
介護技術の根拠となる人体の構造や機能、こころの働きを学びます。根拠ある安全な援助が実施できる知識・技術が修得するための基礎知識となります。介護は対象が自立していくための援助です。対象の尊厳を保持し、その人なりの自立について、ICFの概念をもとに、生活との関連で考えていきます。介護職員初任者研修課程の資格の取得、将来、介護の現場で働いていくため、必要となる知識・技能の修得を目指していきます。							
学修内容				到達目標			
① 介護とICF、ケアの本質について学ぶ。 ② 人体の構造と機能、生活との関係について学ぶ。 ③ バイタルサインの測定の仕方、観察の仕方を学ぶ。 ④ 障害者・高齢者の心理や特徴について学ぶ。				① ICFの概念、ケアの本質をもとに、介護を自分の言葉で説明できる。 ② 人体の名称、役割を説明することができる。 ③ バイタルサインの測定(体温、呼吸、血圧)ができる ④ 障害者・高齢者に会ったときに支援方法がわかる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏 み出す 力	主体性	必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。					
	働きかけ力						
	実行力	目標を設定して、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。					
考え抜 く力	課題発見力	バイタルサインの数値を、体のメカニズムと関連させて、考えていくことができる。					
	計画力						
	創造力	課題を考えるとき、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。					
チーム で働く 力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。					
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができる					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 三巻 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ 資格との関連：介護職員初任者							
学修上の助言				受講生とのルール			
介護に関する情報を意図的に収集してください。聞きなれない言葉は主体的に調べて、理解すること。				● 授業を欠席したら、欠席分の課題を出して、補充を行います。欠席はしないこと。 ● 介護職員初任者の資格を取得には、評価が「良」以上あること。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記(レポート含む)・実技・口述試験	50	①	✓	・介護、人体の構造・機能について、適切に理解しているかを評価する。 ポイント： ①介護とICF、介護技術とは ②人体構造・機能(関節・筋・骨、 ③バイタルサイン ④救急処置 ・授業で学習した内容の理解度を確認する。 ⑤高齢者の身体的、心理、社会特徴を確認する。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤			
	平常評価	小テスト	10	①	✓	毎回の小テストの点数を平均して判定する。 ①授業内容を理解できているか確認する。 ②穴埋め問題と簡単な分析を中心に出題する。 ・出題範囲は、各時点までの授業で学習した内容とする。
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
				⑤		
		レポート	10	①	✓	介護について、提示する資料などをもとに、自分の言葉で表現することができている。
				②		
				③		
				④		
				⑤		
成果発表(プレゼンテーション・作品制作等)	20	①		・内容の正確さに加え、聞き手にわかりやすく伝える工夫ができていないかについても評価の対象とする。(評価ポイント：作成資料、説明の流れ、話し方等) ・体温、血圧、脈拍を測定の方法、部位が正確であるか、実技チェックをおこなう。		
		②	✓			
		③	✓			
		④				
		⑤				
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。 (実行力) ・目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。 (課題発見力) ・バイタルサインの数値を、体のメカニズムと関連させて、考えていくことができる。 (創造力) ・課題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 (発信力) ・グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。 (傾聴力) ・グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 (規律性) ・無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができる。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
			⑤			
総合評価 割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>秀</p> 1.介護について、ICFの観点から自分の言葉で説明できる。 2.体を動かす、脳と神経、生命兆候に関係する人体の構造と機能をそれぞれ関連づけて説明することができる。 3.正確にバイタルサインの測定ができ、その数値の変動因子を踏まえて考察することができる。 4.事例の一次的救急処置について、わかりやすく、資料を作成して、発表することができる。 5.発表前に、他者に事前にアドバイスを得て、さらに付け加えをして行うことができる。 6.授業の到達目標から自身の習得しなくてはならない知識を理解し、自己学習ノートをわかりやすくまとめ、活用できる。 7.筆記試験が90%以上の正解率である。 優 上記の1,2,3,4ができていて、総合評価で80%以上である。	<p>良</p> 1.介護、ICFについて説明できる。 2.体を動かす、脳と神経、生命兆候に関係する人体の構造と機能について説明できる。む 3.バイタルサインの測定ができる。助言のもと、数値について考察できる。 4.上記の内容について、資料を作成して、発表することができる。 5.自己学習ノートをまとめることができる。 総合評価で70%以上である 可 1,2,3,4の内容が助言のもと、資料を作成でき、発表することができた。 総合評価で60%以上である。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	介護の基本的考え方	講義 (木村)	介護とは何か、ICFと介護の関係を説明できる。	(復習)ミルトンメイヤロフの「ケアの本質」の一節を読み、概要と考えたことをまとめる。 (予習)事例をICFの観点から考える。	60	主体性 規律性 創造力
2週 /	からだのしくみ 人体各部の名称、筋・骨	プレゼンテーション (口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 講義・演習 (木村)	筋・骨・関節の可動域、名称・機能を述べられる。	(復習)筋・骨の復習をノートにまとめて整理する。	60	主体性 発信力 実行力
3週 /	からだのしくみ ボディメカニクス、包帯法	小テストと解説 発表(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 講義・演習 (木村)	介護実践とボディメカニクスを列挙できる。	(復習)ボディメカニクスのポイントをまとめる。 (予習)事例の対象の包帯の使い方をもとめてくる。	60	主体性 発信力 創造力 課題発見力 傾聴力
4週 /	からだのしくみ 脳と神経	小テストと解説 プレゼンテーション(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 講義・演習 (木村)	脳と神経の名称、機能を説明できる。	(復習)脳と神経の名称、機能をノートにまとめて整理する。	60	主体性 発信力 傾聴力
5週 /	バイタルサイン 意識状態の見方、体温の計測	小テストと解説 プレゼンテーション(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 講義・演習 (木村)	意識状態の見方を説明できる。	(復習)意識状態の見方をノートにまとめて整理する。 (予習)意識レベルに書いてある問題をおこなう。	60	主体性 発信力 実行力
6週 /	バイタルサイン 意識状態の見方、体温の計測	小テストと解説 プレゼンテーション 講義・演習 (木村)	血圧、脈拍、体温を正確に測定できる。	(復習)血圧、脈拍の示すものについてノートにまとめる。 バイタルサインの測定時の注意事項をまとめる。 (予習)随伴症状の観察ポイントをまとめる。	60	主体性 発信力 実行力
7週 /	負荷をかけたバイタルサインの変化	実験・演習 プレゼンテーション(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) (木村)	バイタルサインの変化を説明できる。	(復習)授業中におこなったバイタルサインのデータを分析する。理由付けも考えてまとめる。	60	主体性 発信力 課題発見力
8週 /	緊急時の対応	小テストと解説 プレゼンテーション 講義・演習(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) (木村)	骨折、熱傷、意識消失など緊急時の対応119番のかけ方を述べられる。	(復習)緊急時の対応が必要となる状態についてノートにまとめる。	60	主体性 発信力 課題発見力 実行力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	加齢に伴う変化とその心理	講義・演習 (近藤)	高齢者の心理や身体の変化について説明できる	(復習) 加齢に伴う身体的変化と心理変化についてノートにまとめる	60	主体性発信力
10週 /	高齢期のパーソナリティと適応	講義・演習 (近藤)	高齢期のパーソナリティの変化と社会適応について説明出来る	(復習) ライチャードのパーソナリティの変化、高齢者の適応過程についてノートにまとめる	60	主体性発信力
11週 /	高齢期の喪失体験	講義・演習 (近藤)	社会的な役割、心身の機能など高齢期における喪失体験など要点が説明できる	(復習) 高齢者の喪失体験をまとめ、心理的变化を考える	60	主体性発信力
12週 /	自己表現と生きがい	講義・演習 (近藤)	高齢期における自己表現や生きがいについて要点が説明できる	(復習) マズローの階層と自己表現の関係をノートに整理する	60	主体性発信力
13週 /	生きがいとは何か	講義・演習 (近藤)	人々にとって生きがいとは何かについて、自分の生きがいを含めて説明できる	(復習) 生きがいの一般論をまとめ、自分にとっての生きがいについてレポートする	60	主体性発信力
14週 /	生きがいづくりの支援1	講義・演習 (近藤)	施設利用者のいきがいと支援について説明できる	(復習) 生きがい支援についてまとめる。事例を読み、生きがい会い支援をするための方法をレポートする	60	主体性発信力
15週 /	生きがいづくりの支援2	講義・演習 (近藤)	利用者・自分自身のいきがいについて学び説明、理解できる	(復習) 双方の関係性の中から、生きがい支援についてまとめる。事例を読み、生きがい支援をするための方法をレポートする	60	主体性発信力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力